

令和5年度 認定こども園いくさと「関係者評価」

園名 認定こども園いくさと

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する	
めざす 子ども像	自然に親しむ子	・五感を通して豊かな感性を育てる。 ・自然体験を通して豊かな感情・好奇心・探究心・思考力・表現力の基礎を培う。
	友達を大切にする子	・人との関わりの中で、自主・自立心及び協調の態度を養う。 ・道徳心の芽生えを培い、お互いに認め合う仲間作りに努める。 ・言葉による伝え合いができるようにする。
	外で元気に遊ぶ子	・遊びを通して、学びに向かう力を育む。[熱中・挑戦・驚き・多様な発想・素直さ等] ・困難に立ち向かう力を育む。
教育・保育方針	・基本的生活習慣の定着を図り、健康な生活リズムを身につけ、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ・五感を通しての学びを大切にし、生きる力の基礎となる意欲・心情・態度を養う。 ・一人ひとりの発達や育ちを大切にし、理解と受容、共感しながら、子どもにとって心豊かで安定した生活の場にする。 ・園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。 ・職員の資質・専門性の向上を図る。	

自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取り組み(達成)の状況	達成状況	改善の方策(今後について)
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・市教委指定の公開保育(7/7公開)・若手保育教諭研修等の研修や、市・町保協の各研修に計画的に職員が参加した。外部講師も計画的に招聘できた。 ・オンライン・ハイブリッドの研修(県・市・町保協主催)にも振り分けて参加した。 ・研修での学びを午睡の時間や職員会(ホワイトボード、紙文書配布)で共有した。 ○報・連・相を適宜行い、職員ノート閲覧、個人ケース活用等で、情報を共有し、円滑な組織運営に努めた。	B	・オンライン研修も含め、自主的・意欲的に参加し、学んだことの共有の仕方をさらに工夫し、資質の向上に努めたい。 ・外部講師の招聘は例年並みとするが、園外研修参加者の還流の仕方を工夫し、充実させていきたい。 ・月案・週案の有効な在り方について検討し、PC作業の効率化も進めながら、保育・教育の質の向上に努めていきたい。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○4月施行された「こども基本法」の理念に従い、「こども園教育・保育要領」に示されたねらい・内容を取り入れた編成を行った。 ○一人ひとりを大切にし、発達年齢に応じた教育・保育に取り組み、主体的に子どもたちが活動できる環境を整えるように努めた。 ○市教委から紹介された講師先生の助言を受けて「短期指導計画」(2週間)の改善を図り、「エピソード記録」の取り組みを進めた。	B	・園児一人ひとりの育ちの過程や興味関心に基づいた関わりがもてるよう、「みつめる」「追う」ことにこだわり、遊びや学びの過程の「見える化」「見せる化」を充実させる。 ・各クラス運営の交流を活発化するために、「園児たちが主体的に関わる環境作り」に絞って交流に努める。 ・朝の時間や午後の時間における異年齢保育の課題と成果の共有化を探っていく。
子支援 育て	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すぐすぐひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すぐすぐひろば」を感染防止に留意しながら、目標日数分実施できた。 ・他園との合同開催や講師招聘を行い、気になる家庭には電話をするなどして、子育ての悩み相談等に応じながら、計画的に開催できた。(100%が満足) ・登録園児への通信配布と、HPへの通信掲載、よい子ネット登録及び活用等により、園内での子どもたちの様子を伝えることができた。 ○「園内子育て支援委員会」により、給食のレシピや子育て情報の発信(毎月)を行った。(94.7%が満足)	B	・「イベントのみ参加」型の登録者もあるが、氷上地域内の「すぐすぐひろば」同士の交流を活性化していく。 ・通信のHP掲載や、よい子ネット活用を継続し、給食レシピや子育て支援など内容の充実を図る。 ・園庭開放等、園内行事等との調整を継続していく。 ・関係機関との連携を図りながら、育児相談・保護者研修等の充実を図る。
保安健全管理 安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○職員分担による安全点検を実施した(毎月)。専門業者による遊具点検を実施した(2年ごと)。 ○毎月避難訓練を実施した。(火事、地震、水害、不審者) ・時間帯、担当者、想定を工夫し、職員の共通理解を図った。 ・屋内消火栓使用訓練、通報訓練、バスのクラクション練習も分担して計画的に実施した。 ○事故報告書、ヒヤリハット報告書を活用し、事故防止へ繋げた。 ○新型コロナ感染症防止対策等をはじめ、園児の健康管理に努めた。 ・「保健だより」の発行により、感染症対策や健康な生活の仕方を知らせた。	B	・毎月の避難訓練の内容を工夫し、計画的に、あらゆる場で状況判断をし、行動に移すことができるようにして、危機管理意識を育てるようにしていく。 ・事故報告書やヒヤリハット報告書等で、共有化を図り、事故後の対応について考察を行い、事故防止に繋げていく。 ・欠席園児が増加する時期を見逃さず、保健だよりやよい子ネットを活用し、保護者への感染拡大防止・感染予防意識の向上に繋げていく。 ・電子錠の導入により、不審者侵入防止対策を強化する。
教育特別支援 ・特別支援 保育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○特別支援コーディネーターを中心に、担任・加配担当との連携を図りながら、個々の園児にあった支援の方法を探った。 ○療育施設をはじめ、専門機関との連携を図った。 ・支援の必要な園児と一緒に専門機関に出向き支援の方法を探った。 ・面談の中で保護者の思いを聞き取り、小学校の特別支援コーディネーターや関係機関に繋ぐことで、安心して進級や就学ができるようにした。 ・医療的ケアが必要な園児についても、看護師・保育教諭・主治医・関係機関との連携を密にした。	B	・特別支援の必要な園児には、個別計画を作成し、そのことを共有する場も設定し、必要な支援に努めていく。愛着障害についての理解も深める。 ・巡回相談や支援センター・職員・療育施設職員等との連携を一層密にし、日々の教育・保育に取り組むよう心掛けていく。 ・小学校の特別支援CO.や園小接続推進担当、関係機関(アフタースクール職員)との打ち合わせを通して、保護者の思いを大切にしないでいく。
家庭・地域 他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○個人情報に留意しながら、情報発信に努めた。 ・一人ひとりの園児に対し、みとったことを送迎の際の面談や連絡帳で知らせた。 ・園だより・クラスだより・給食献立予定表・保健だより、また、HPやよい子ネットを活用して、取組の意図や子どもの姿を具体的に発信した。(2月末現在で417件の発信) ○参観日・給食試食会(4歳児)を開催した。 ・具体的な子どもの姿を通して、園の教育・保育、給食への理解をしてもらう機会とした。 ○園小連携 ・計画的に相互の学びを積み重ねていけるように交流を行った。 ・長期休暇を活用した東小職員の訪問や、1年生授業参観、園小連携会議を実施し、相互の研修で学び合った。 ・アフタースクール職員、東小全職員と、子ども理解をテーマに8月2月の2回合同で研修した。 ○地域交流 ・地域・保護者の方を「〇〇先生」としてお迎えし、保育教育や体験活動の充実を図った。 ・園児たちの山登りや探検活動など裏山の活用を推進し、「生郷里山づくり懇話会」との連携を図ることができた。 ・地域の小規模保育所との交流を開始することができた。	B	・子どもの姿から学ぶだけでなく、保護者の声からも学ぶ体制を整え(中間評価について、保護者会役員と意見交流を行う)、家庭と園との相互理解を図る。 ・子どもたちの「生の姿」を目にすることを増やすために、保護者参観のあり方を工夫したり、制限人数の拡大を図ったりする。 ・一つひとつの行事(前:前回の反省を踏まえる、後:感想や意見の収集方法をマニュアル化する)を終えた後、反省点をまとめ、振り返ることで、次に向けての改善等を検討していく。 ・計画的な「園小連絡会」を持ち、職員の相互参観、動画活用によるオンライン交流等、例年並みの事業を継続し、子どもの変容を中心に方を検証していく。 ・地域・保護者の方を「先生」として招聘し、体験活動の質を向上させ、つながりを充実させていく。 ・「柏原の郷」「小規模保育所」との交流も継続し、今後も取り組んでいきたい。 ・月例で自治振興会長をはじめ福祉社会役員の訪問を受け、本園の取組や子どもの様子を地域の方々に知っていただく機会としていきたい。

こども園関係者評価(こども園関係者評価委員より)

- 昨年度末人事異動で多くの異動があったが、チームとしてまとまり、しっかりと取り組まれた成果が「生活発表会」での子どもの姿に出ていた。
- 数値的には下がっているが、保護者としてそうした実感はなく、兄姉が通っていたころと比べても遜色ない教育・保育をしてもらっている。
- 園としての安全対策は掲示や指導等よくしてもらっている。保護者責任の部分もある。冬の夕方の雨の時には確かに暗いと感じるので、ライトの設置を考えていただきたい。
- 「五感を豊かにするため」の取組が、電車・裏山・公園・高谷川などの周辺環境をよく理解した上で、積極的にできていることに好感を持つ。
- 子育て広場利用者の「交流」や保護者間の「交流」には、捉え方がさまざまであることが要因のように感じる。
- 「よい子ネット」をはじめ、情報発信の透明性が高く、子どもの姿もよく分かる。ICTを活用したアンケートや出欠連絡等にもチャレンジしてもよいのではないか。
- 「子どもの生の姿」を見る機会を増やすために、「祖父母参観」の復活等、参加者を増やすことへの対策を講じていただきたい。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- 「子どもの姿に学び、保護者の声に学ぶ」姿勢を堅持し、さらに情報発信の充実に努める。
- 働き方改革の質を向上させ、保育・教育の質の向上を図るために、日々努める。
- 家庭(保護者)・地域(小学校等含む)・こども園との連携をさらに強化し、推進していく。

令和6年3月31日

園名

認定こども園いくさと

園長名

安田 和仁

